



秋のお彼岸

一雨ごとに秋の気配が深くなり、
日暮れには虫の音が涼しく聞こえてきます。

朝夕めっきり過ごしやすくなったためか
うっかり夏の疲れが身体に響きそうな今日この頃
皆様、いかがお過ごしですか？



さて今月23日（秋分の日）を中日として

9月20日から26日までの一週間、秋のお彼岸を迎えます。
お彼岸は、仏様の教えを日常の中で実践する「心の修行期間」です。

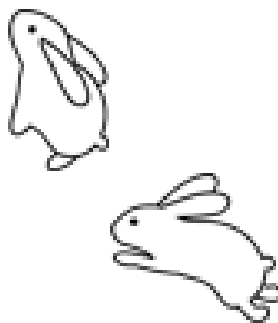
「暑さ寒さも彼岸まで」といわれる過ごしやすいこの時期、
少し心にゆとりを持って自分の生活を振り返ってみたいものです。

仏様は私達に「彼岸（悟りの世界）に至るために取り組むべき修行は
六波羅蜜（ろっぱらみつ）であり、この6つの正しい道を実践しなさい」
と教えて下さっています。

お彼岸の期間は、この六波羅蜜を日常の中で具体的にを行うことが大切になってきます。

六波羅蜜（6つの正しい道）の中のひとつ 「布施（ふせ）」

「布施」は、執着の心をなくす道です。
誰かに何かをしてあげても見返りを求めず、
自分の心から、こだわりや執着の心をなくす修行です。
例えば、「無財の七施（むざいのしちせ）」は
日常の中で今すぐできる修行ではないでしょうか。



いつも、やさしいまなざしで（眼施）にこやかに笑い（和顔施）
思いやりのある言葉で（言辞施）人のために身体を使いなさい（身施）
誰かのために心をくだいて悲しみ喜び、（心施）
前に出しゃばらず「お先にどうぞ」とゆすりあい（牀座施）
心にゆとりをもって気持ちのよい対応でもてなしなさい（房舎施）



自分が一番疲れた時、悲しくて落ち込んでいる時、
こんな人がそばにいてくれたら・・・と思える暖かい人
私達ひとり一人が、もしそんな人になることができたなら、
そこそ悟りの世界（彼岸）なのかもしれません。

いつもお経をお唱えした後、かならず回向文（えこうもん）をお唱えします。
和尚様がいれば和尚様がお唱えしますが、一人の時はご自身でお唱えします。

この「回向文」とは、文字通り「めぐらし向ける」ことで、
一生懸命行ってきた善行功德を、自分だけのものにせず、
亡くなられた先祖供養のため、また世間一般の方々のために
めぐらし向けることを願う文です。

＜回向文 書き下し＞

「願わくばこの功德をもって、あまねく一切に及ぼし
我らと衆生と皆ともに仏道を成ぜんことを」

日常の中で自分なりに善行を積み、彼岸明けには心静かに
お経とともに回向文をお唱えすることができればと願います。



大智寺だより

平成 25 年 長月
Vol.43

発行所

大智寺

岐阜市山県北野
668-1

電話: 058-229-1532

《Mail》

hybsr245@ybb.ne.jp

《ホームページ》

大智寺

検索

<http://www.daichiji.com>

当紙は、大智寺本堂及び墓地
の水小屋にてご自由にお取り
いただけます。
又、当寺ホームページにて
過去すべての紙面をご覧いた
だけます。ご活用ください。

8月号発行部数
200部

ご愛読

ありがとうございます

早稲田大学から 大智寺・獅子庵の見学

残暑も日ごとくやわらいでゆく9月11日、お寺に早稲田大学の学生さん40名ほどが勉強のためにいらっしやいます。

早稲田大学には、堀切先生という各務支考の研究に力を入れて取り組まれている名譽教授がおられ、大智寺の先代住職が存命の頃から時々お寺にいらっしやっていました。

今回は、その堀切先生の講座受講生の方々が2泊3日で岐阜県にある俳人史跡を訪れる計画だそうで、勉強の合間には郡上八幡や小瀬鶴飼、岐阜城の観光も取り入れた楽しい旅となっているようです。

岐阜には松尾芭蕉をはじめ、各務支考や広瀬惟然など、俳諧の道を究めた方の資料がまだまだ残っています。こうして若い学生の方々に来ていただくことで、さらに俳諧に興味をもって自身の研究を深めていただくきっかけになれば、幸いです。

この美濃路の旅が、俳諧の勉強のみにとどまらず岐阜の良さも満喫できる素晴らしい旅となりますように。



～ お盆を終えて ～

●8月4日(日)には、里2号の皆様が30名ほど集られ、お盆前の大掃除をしてくださいました。お墓前から境内にかけて本当にきれいになりました。おかげ様で、お盆には気持ち良くお参りいただくことができました。ありがとうございました。

●今年のお盆は猛暑日が続き、どうなるかと心配でしたが和尚2人ととも何とか無事12・13・14日の棚経に回らせていただくことができました。時間が前後し、皆様にはご迷惑をおかけしたと思います。ありがとうございました。

●暑い盛りでしたが、8月15日の山門施餓鬼には多くの方にお参りいただき先祖供養を行うことができました。本当にありがとうございました。



～ シリーズ 美濃西国三十三観音霊場 その③ ～ 4年に一度の総開帳 平成26年4月6日(日)～4月20日(日)

霊場めぐり ひとくちメモ

観音信仰を深める霊場めぐりは、「妙法蓮華経観世音菩薩普門品偈」という皆様も聞いたことのある、長いお経が基盤となっています。

このお経の中には、

『真心をもって一心に観音様の御名を称えれば、観音様はその声を観じてお姿を三十三に変え、たちどころにわれわれの苦悩をお救いくださる』

という教えが説かれています。この「お姿を三十三に変え」という部分から全国に三十三観音霊場が生まれました。霊場めぐりでは、私達の苦悩に合わせてお姿を変えた観音様に巡り合えるのです。



霊場のご紹介

第七番札所 : 臨済宗妙心寺派 龍福寺(関市) ご開帳: 聖観音菩薩
樹木を背にした境内では、美しい苔が楽しめる 気持ちの良い禅刹です。

第八番札所 : 真言宗醍醐寺派 三光寺(山県市) ご開帳: 聖観音菩薩
「あじさいの山寺」として親しまれており、天然記念物の菩提樹や多羅葉も見応えがあります。

第九番札所 : 臨済宗妙心寺派 東光寺(山県市) ご開帳: 聖観音菩薩
妙心寺聖澤派の祖 東陽英朝が開いたお寺で、愚堂和尚が修行したことで知られています。
1500年代初めには三輪浄音寺南にあり、その後伊自良へ移転したそうです。

お寺では、これから観音霊場巡りをなさる方に、奉納経(一冊500円)をご用意しております。この奉納経は、各お寺のご朱印をいただくための 美濃西国三十三観音専用のものとなります。



～ 観音様の教え 『延命十句観音経』 ～

第三句：与仏有因（よぶつういん）

子どもも唱えられる 一番短いお経から、
観音様の教えを簡単にご紹介。



前の句「南無仏（なむぶつ）」において、
観音様は「自分の仏心信じること、悩みのない安らぎへ帰りなさい」と教えてくださいました。
でも正直なところ、自分の中に仏様と同じ純粋無垢な心があるなんて、
「本当かなあ？」と疑ってしまいます。
そこでそんな私達に、観音様はもう少しわかりやすく教えてくださいました。

「与仏有因」 — あなた達には、仏となる可能性（原因）が与えられているのだよ、と。

仏教思想の中心には、
「一切万物は、原因があるから結果が生じるのだ」とする思想があります。
きれいな花も畑に「種」をまくから、その結果として花が咲きます。
それと同じように、私達の心の中には分けへだてなく「仏となる種」がまかれています。

「仏も昔は凡夫なり 我らもついに仏なり」（『梁塵秘抄』より）
凡夫である私達に「仏となる種」がまかれていることは、お釈迦様が証明して下さいました。

今月のひまわり

九月に入ると目に見えて秋の気配が深まります。
お寺では涼しげに萩の花がゆれ始め、夜風が冷たく
衣替えに慌てる始末。夏が暑かったためか今年、
秋の始まりがくっきりわかるような気がします。

さて、秋のお月見には、やはりお供えのお団子が
欠かせませんが、私のような不器用にはなかなか
まんまるのお団子作りはうまくいかず、いびつな
形のお団子でいつも勘弁していただいています。
いびつな形のお団子もさることながら、私には
人知れず「やれやれ」と思うことが多々あります。
お客様にお出しする一杯のお茶でも「うまくいかな
いなあ」と思うことがしょっちゅうです。感情が治
まらず、落ち込んだり、頭の中で言い訳を考えたり、
家族に愚痴を言ったり、怒ったり、嘆いたり・・・

「急流の小石は丸い」と言います。角ばった
私のような石でも、あちこちがぶつかって、悩んだり、
笑ったり、苦しんだりするうちに、丸くなるのかな
と、いびつな形のお団子を作りながら思います。
今月はお月見の季節。
皆様はどんなことを月に願いますか？
悲しい時、苦しい時、
「おん、まると、もつとまるん」と
わびやいてくれるもう一人の自分が
隣にいってくれたらと私は願います。



～ シリーズ 北野のおばあちゃんの味 ～

♪ 北野で丁寧に野菜を育てるおばあちゃんの味 おすそわけ ♪

里1号のおばあちゃん おつまみ気分で 枝豆の板焼き

- ① 枝豆は新鮮なうちに普通にゆでて、ザルにあげておく。
- ② ボウルに小麦粉大さじ1と半分くらい入れ、水大さじ1で溶く。
- ③ 枝豆をサヤから出し、薄皮を取って、ボウルの中に合わせよく混ぜる。
- ④ フライパンに油を少々入れて、ボウルの枝豆をおたまにとり、平たくのばす。
時々、裏表ひっくりかえして、こんがり焼き上げ、天つゆをつけて食べる。



フライパンに枝豆を入れる時、ちょっとつぶし加減にするとおいしいよ。
にんじんやゴボウがあれば、彩りがええかもしれんね。こんがり焼けるとうれしいねえ。



～ うちの宗教って、どんなやつけ? ～

第九回：岐阜 瑞龍寺の悟溪宗頓（ごけいそうとん）

大智寺の宗門を、やさしく簡単におわかりいただければ嬉しい、そんなお話



1337年に開創した妙心寺の歴史は、決して順風満帆とは言いがたいものでした。

1399年、時は室町幕府3代将軍 足利義満の世。
義満に対する謀反「応永の乱」を起こした大内義弘と、
妙心寺6世住持の拙堂和尚が師壇関係にあり、乱の後も関係を解消しなかったがために、
義満は大いに怒り、妙心寺の寺領・寺地を取り上げてしまいます。
「妙心寺」は「龍雲寺」と名乗らされ、南禅寺の末寺とされます。
こうして約30年の間、妙心寺は歴史からその名前を消すこととなります。

ようやく1432年に「妙心寺」が復活しますが、
1467年から約10年間、室町時代から戦国時代へ突入するきっかけとなった「応仁の乱」が勃発。
この時、主要な戦場であった京都は ほぼ壊滅的被害を受け、妙心寺も例外ではありませんでした。

もはやボロボロになってしまった妙心寺の復興を行ったのが、
妙心寺9世住持 雪江宗深（せっこうそうしん）でした。
雪江宗深には、4人の優秀な弟子がおり、それぞれ龍泉派・東海派・靈雲派・聖澤派
という四派を確立され、その後の妙心寺を盛り立てていきました。
その4人弟子のうちの1人、東海派の祖が
岐阜の瑞龍寺を開いた悟溪宗頓（ごけいそうとん）でした。



♪ 月に一度はお寺まいり ♪



初心者 大歓迎
東日本大震災物故者追善供養
毎月 第四日曜日
定例写経会

今月の日程

9月22日（日） 一回 500円
（朝8時～9時） （内300円は義援金）
要申込

8月写経会 備忘録

少し肌寒さを感じる小雨の日曜日、
10名の方々が写経を行いました。
中には小学生のお子様もいらっしやう、
夏休みの宝物として学校に提出されるとの
こと、一枚の紙にも魂をこめれば、かけがえ
のない宝物になるのだなあと、感銘を受けま
した。またいつでもお出かけください。

永代供養墓って、どんなお墓？

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りする方がいなくても、
永代にわたって、お寺が守って供養するお墓のこと。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦ご家族一緒に
ひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。
永代に亘り、他の方のお骨と混じらないことから
「完全個別永代供養墓」といいます。

ご希望の方は、いつでもご相談ください。



完全個別永代供養墓
1区画：38万円～
（墓石代金含む）

ご家庭のご事情により、
また、その方のご希望により
費用は変わります。

詳しくは、ご見学を含めて
ご説明いたしますので、ご予約
の上、ご来山ください。